

官報

號外

明治二十九年二月一日

土曜日 內閣官報局

○第九回 貴族院議事速記録第十一號

明治二十九年一月三十一日(金曜日)午前十時五十一分開議

議事日程 第十一號 明治二十九年一月三十一日

午前十時開議

- 第一 國債證券買入銷却法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第三 新聞紙法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第五 明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例 第一讀會
- 第六 中刪除法律案(衆議院提出)
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 古社寺保存會組織ニ關スル建議案(公署近衛篤 會 議
齋君外二名發議)

○副議長(侯爵黑田長成君) 一昨二十九日本院ニ於テ可決ニナリマシタル政府提出明治二十八年度歲入歳出總豫算追加案(甲)竝ニ明治二十八年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(甲)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、明治二十八年度歲入歳出總豫算追加案(乙)明治二十八年度歲入歳出總豫算追加案(丁)、是ハ即日內閣總理大臣ヲ經由致シマシテ裁可ヲ奏請致シ且ツ可決ノ旨ヲ衆議院ヘ通知致シマシテゴザイマス、次ニ明治二十八年勅令第九十二號承諾ヲ求ムルノ件特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ公爵二條基弘君、副委員長ニ男爵小澤武雄君當選ニナリマシタ、官設鐵道用品資金増加法律案外一件特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ子爵岡部長職君、副委員長ニ子爵堀田正養君當選ニナリマシテゴザイマス、議事日程ニ移リマス

○笑作麟祥君 是ヨリ船舶検査法案外二件ノ特別委員會ヲ開キタイト思ヒマスカラ退席ノ御許ヲ得タク……

○副議長(侯爵黑田長成君) 唯今笑作君ノ請求ハ別段定足數ニ差支ハゴザイマセヌカラ御異議ナケレバ許可致シマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵黑田長成君) 國債證券買入銷却法案政府提出衆議院送付第一讀會ヲ開キマス、書記官ヲシテ朗讀ヲ致シセマス

有賀書記官朗讀 國債證券買入銷却法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治二十九年一月九日

內閣總理大臣侯爵伊藤博文
大藏大臣子爵渡邊國武

國債證券買入銷却法

- 第一條 政府ハ毎年度國債費豫算定額以內ニ於テ國債證券ヲ買入レ之カ銷却ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 國債證券ノ買入銷却ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ其ノ證券ノ種類番號總額及其ノ買入價格ヲ告示スヘシ
- 第三條 銷却ノ爲メニスル國債證券ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(政府委員男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 此國債證券買入銷却法案デアリマスルガ誠ニ簡單ナ案デアリマスルカラ別ニ御説明ヲ申上ゲズトモ宜シカラウト思ヒマスガ提出者ノ義務トシテ簡單ニ一言申上ゲテ置イタガ御便利デアラウト思ヒマスカラ一寸申上ゲマスルガ御承知ノ通ニ此國債ノ銷却致シマスルニハ抽籤法トワレカラ買入法ト云フ二ツガアルト云フコトハ是ハ明カナコトデアリマスル、然ルニ我邦ノ公債法デハ是マデ實際ノ必要ガ格別ナイ所ヨリ抽籤法ノミニナツテ居マシタノデゴザイマスル、併シ是カラ國債ノ數モ餘程多額ニナリマスルコトデアリマスルシ、又此國ノ發達ニ從ヒマシテ市場ノ變動ト云フモノモ今日マデヨリカ餘程廣アル又其度合モ餘程激シカラウト云フコトハ今日豫想シ得ベキコトデアリマスルカラ遠カラズシテ斯ウ云フ方法ガ必要ニナルデアラウト云フ所ヨリ萬一其公債證書ガ定價以下ニ價格ガ下ガリマシタトキニ於テ買入ヲ爲シマシタ方ガ國庫ノタメニ便宜デアリマスルカラ此案ヲ提出シタ譯デアリマス、尙ホ詳細ノ點ハ委員會等モ御開キニナリマセウ又此席ニ於テモ御答辯ヲ致シマスルガ先ヅ大體左様ナコトデアリマスルカラドウゾ速ニ充分御調査ヲ賜ハランコトヲ希望致シマス

○子爵谷干城君 一寸質問致シマス、是ハ固ヨリ抽籤法ト互ニ用井ル積デアリマスカ

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 左様デゴザイマス、此價格ノ昇リマシテ價格以上ノトキハ是ハドウシテモ抽籤法ニ致スノデアリマス、萬一不幸ニシテ九十五圓トカ九十八圓トカニ爲リマシタトキニ之ヲ行ヒマスノデアリマス、併ナガラ是ハ決シテ其強迫的ニハ行ハレヌコトデアリマスルカラ市場ニ賣物

ガ無イトキニハドウモ行フ譯ニハ參ラヌノデアリマス、市場ニ當リ前ニ賣リニ出マシタノヲバ政府ガ買フト云フノデアリマス

○子爵酒井忠彰君 本員モ一寸質問致シタウゴザイマス、此國債證券買入銷却法案ノコトハ唯今次官カラ御達ニナリマシタ通百圓以上ノ價格ノトキハ抽籤ヲ以テ銷却スル、然ルニ時價ガ追々下落シテ九十五圓若クハ九十圓ニ定價ガ下ガルト云フヤウナ場合ニハツレハ市場ノ成行ヲ見テ買入ヲ致スト若シ百圓ノ發行公債デアリマシテ之ヲ九十五圓ニ買入レ、バ成程政府ハ五圓ノ利益……得ガアル成程是カラ先キ經濟ヲ運行致シマシテ成タケ收入ヲ圖ルノハ誠ニ結構ナコト、存シマスガ其安イトキニ買入レル方法ハドウ云フ方法ヲ以テ買入レラレマスルカ、ツレヲ一寸説明ヲ承ハリタイ

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 酒井子爵ニ御答致シマスルガ、矢張此公開ノ市場ニ於テ買フヨリ外ニ致方ハゴザイマセヌ

○副議長(侯爵黑田長成君) 別段御發議ガゴザイマセヌニ附キマシテ本案ノ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○子爵堀田正養君 本案ノ特別委員ハ議長ニ於テ選定アラシコトヲ望ミマス

○子爵井伊直安君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 堀田子爵ヨリ本案ノ特別委員ノ選舉ヲ議長ニ一任スルト云フ動議デゴザイマス、此動議ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数デゴザイマス、次ニ新聞紙法案政府提出衆議院送付第一讀會ヲ開キマス、是ハ通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

新聞紙法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治二十九年一月二十七日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

新聞紙法

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ發行地ノ管轄廳東京府ハ警ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所

五 發行人(編輯人ノ住所氏名年齡

編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其ノ各部門ニ主任編輯人ヲ設ケタルコトヲ得

第二條 届出ヲ爲シタル後題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セムトスルトキハ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、編輯人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第三條 發行人ニ變更アリタルトキハ其ノ届出ヲ爲スマテ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第四條 届出ヲ爲シタル發行ノ期日ニ發行セシテ五十日ヲ經過シタルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ一定ノ期間ニ期日ヲ定メスシテ發行スルモノニ期間ヲ通シテ發行セサルトキモ亦同シ

第五條 左ニ掲クル者ハ發行人、編輯人ト爲ルコトヲ得ス

一 日本臣民ニ非サル者

二 未成年者

三 公權剝奪及停止中ノ者

第六條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人ノ住所氏名、發行所ヲ記載スヘシ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其ノ責ニ當ラシム

第七條 新聞紙ハ其ノ發行毎ニ先ツ内務省ニ二部、管轄廳東京府ハ及管轄地方裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第八條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其ノ求ヲ受ケタル後其ノ次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付其ノ新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤又ハ正誤書、辯駁書ハ原文ト同號ノ活字ヲ用井同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ求ムル者ヨリ其ノ領收證ヲ受ケムコトヲ望ミタルトキハ之ヲ與フヘシ

正誤、辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其ノ住所氏名ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第九條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録シタル事項ニシテ其ノ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後其ノ次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得

ス

第十條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ記載スルコトヲ得ス

第十一條 重罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十二條 外交ノ軍事ニ關シ公ニセサル官ノ文書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聴ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十三條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ

內務大臣ニ於テ發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十四條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルモノアルトキハ內務大臣ハ其ノ新聞紙ノ內國

ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十五條 陸軍大臣、海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊、軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起ストキハ檢事ハ假ニ其ノ新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀侮辱ノ訴アル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外被告ハ事實ノ證明ヲ爲スコトヲ得其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第十八條 第一條、第二條ノ居出ヲ爲サス又ハ第五條、第六條第一項、第七條ヲ犯シタルトキハ發行人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條、第二條ノ居出ヲ爲サスモ實ヲ以テセサルトキハ發行人罰前項ニ同シ

第十九條 第八條、第九條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條、第十一條、第十二條ニ違フトキハ編輯人ヲ十一日以上六

月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條、第十四條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲シタルトキハ發行人又ハ發賣頒布ヲ爲シタル者罰前項ニ同シ

第二十一條 第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル論說ヲ記載シタルトキハ編輯人ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 風俗ヲ壞亂スル新聞紙ヲ發行シタルトキハ編輯人ヲ十一日以下

上三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第八條ニ違ヒタル場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第二十六條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月トス

第二十七條 定期ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版法第二條ニ依リ出版スルモノノ外皆此ノ法律ニ依ル

附則

第二十八條 明治二十年勅令第七十五號新聞紙條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

(政府委員男爵末松謙澄君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵末松謙澄君) 甚ダ失禮デゴザイマスルケレドモ咽喉ヲヒドク傷メマシテゴザイマスカラ頸卷ヲドウカ御許ヲ願ヒマス、本案ハ政府カラ衆議院ニ提出ニ相成リマシタ案デゴザイマシテ、衆議院ノ修正ヲ經マシテ當院ニ參リマシタ譯デアリマス、之ニ對シマシテ長キコトヲ申スニハ及ビマセ

スガ一應其提出ノ理由ヲ述ベテ置キマスデゴザイマス、新聞紙條例ノ改正ノ儀ニ附キマシテハ當初ヨリ帝國議會ニ於キマシテ屢々議事ニ上ツタ譯デアリマス、デ衆議院ノ議事ノミナリマセズ年々當貴族院ノ議事ニモ上リマシタ、而シテ其間ニ於キマシテハ衆議院ノ見ル所ト貴族院ノ見ル所ト竝ニ政府ノ見ル所トハ各々異ナル所ガゴザイマシテゴザイマス、之ヲ要シマスルノニ衆議院ハ最モ大ナル改正ヲ要シ當貴族院ニ於キマシテハ衆議院ノ如キ過激ノ改革ハ宜シクナイト云フ御意見ニ大抵定ツテ年々同ジコトノヤウニナツテ居リマス、政府ハモウ少シツレヨリ守舊ノ考デアリマシタ、サリナガラ衆議院ニ於

キマシテモ折々申シタコトモアリマスルガ此多少ノ改正ヲ加ヘルト云フコトニ於テハ餘リ客ニ致スト云フ譯デアリマセヌ、其中或ル眼目杯ノ點ニ於テハ讓歩致スト云フコトハムヅカレノデアリマス云フ爭ニナツテ居リマシタノデアリマス、段々情勢ヲ考ヘ來リマシタ所デ政府ニ於キマシテモ多少ノ讓歩ヲ致サナクテハナルマイト云フヤウナ考ニナリマシタノデ、而シテ其考ハ當貴族院ニ於キマシテ修正サレマシタル意向ト最モ相近イノデ其方ヲ重モニ贊成スル譯デアリマス、故ニ其貴族院ノ案ヲ根據ト致シマシテ其中ニ多少ノ違ハゴザイマスルガ大體貴族院ノ案ヲ本トシテサウシテ讓ルベキ所ハ大ニ讓リマシテ衆議院ニ出シマシタ、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ衆議院議員ヨリ出シタル議案モ有リマシテ重モニ其方ノ案ヲ取リ即チ以前ノ說ヲ其儘ニ維持スルト云フ傾向デアリマシテ、依ツテハ當貴族院ノ案ヲ根據ト致シマシテ製シタル所ノ政府案ニハ頗ル多クノ修正ヲ加ヘテコチラヘ御迴ニナツテ居リマシマス、此修正ノ眼目ニ於キマシテ政府ハ到底同意致兼ネルノデゴザイマス、ソレデ其一番重モナ眼目ハ御承知ノ通發行停止或ハ保證金杯ノ點ニ在

リマス、其外ニ於キマシテモ修正ノ點ハ數々有ルヤウデゴザイマス、デ是等ノ點ニ於キマシテハ衆議院ノ修正案ニ同意ヲ表スルコトハ出來マセヌノデゴザイマス、故ニ當御院ニ於キマシテハ年々御議決ノ御精神ニ依リマシテ十分ニ御調査ニ相成リマシテ衆議院ノ修正ハ御排斥ニナルコトヲ偏ニ希望致シマス譯デゴザイマス

○子爵谷干城君 一寸質問ヲ致シマス、少シ御尋ヲシマスガ此現行法ノ所ニ依ッテ考ヘテ見マスト唯其事項ヲ指示スト云フコトノ無イノミデ何モ此一週間以上ヲ停止セヨ一週間以下ハツレガ出來ナイト云フヤウナコトハ實ハ一向規定シテナイ、然ラバ其政府ニ於テ愈々一週間以上止メテ惡ルイト云フ考ナラバ何モ此法律ヲ改正セズトモ此儘デ差支ノナイコト、考ヘル、若シ之ヲ一週間以下ハ停止スルコトガ出來スト規定シテアレバツレヲ改正スルノ必要ガアリマスルケレドモ其規定ガナイ以上ハ一週間以下ノ停止ヲヤウトモ差支ハナイ、若シ其期限ヲ下デントナラバ此法律ノ儘デ差支ナイ、差支ナイノニ殊ニ之ヲ改正スルト云フノデ政府ノ此案ヲ提出サレタ眞意ト云フモノヲ承リタ

○政府委員(男爵末松謙澄君) ツレハモウ改正シナイ方ガ宜シイト云フコトデアルナラバ強テ政府カラ進デドウシテモ斯ウシナクテナラスト云フ理由デ提出致シタノデハゴザイマセヌノデアリマス、併ナガラ衆議院ニ於キマレテハ此停止ノ事ヲ全ク廢メタイト云ヒ、當御院ニ於キマシテハ制限ナク全クツレヲ廢メルト云フコトハ不同意デアアル、併ナガラ制限ヲ置カナクテイツマデモ行ケルト云フコトハ餘リ行政官ニ權力ヲ任セ過ルカラ幾分カ法律テ極メテ束縛シヤウト云フ譯デアリマス、行政官ハ是ガ出來レバ多少其權力ヲ束縛サレル譯ニナリマス、故ニ行政官トシテ扱フ上ニ就キマレテ是非束縛シテ貫ヒタイト云フ主意デハアリマセヌ、併ナガラ段々希望モアルガ故ニ茲デ法律デ明ニ極メテツレカラ上ノコトハ出來ナイト云フコトヲ明ニスルノガ必要デアルト云フ譯デアリマスカラ、ツレハ已ムヲ得ナイツレニ從ハウト云フコトニ過ギナイデアリマス

○子爵谷干城君 ツレナラモウ一ツ御尋ヲシマスルガ素ト此貴族院デ修正ヲシタ精神ト云フモノハ畢竟政府ガ屢々此語ヲナイコトマデニモ停止ヲスル、デ餘リ濫用ノ甚シイカラ已ミヲ得ズ制限シタト云フ譯デアラウト私ハ考ヘテ居ル、然ラバ是マデ政府ガ矢鱈減法ニ停止シタノハ政府自ラモ濫用デアッタト云フコトハ認メラレタノデアリマスカ、其通デゴザイマスカ

○政府委員(男爵末松謙澄君) 是ハ必シモサウ云フ譯デハゴザリマセヌ、總テ法律其他ノ改正ヲ要シマスル時分ニハ何モ是マデガ斯ウ云フ譯デアリ損タト云フ譯デナクテモ時ニ依ッテハ變更致スコトモゴザイマス、故ニ此變更ハ諸君ノ希望ヲ政府ニ於テ容レテサウシテ將來サウ仕ヤウト云フコトニ止マルノデ、今マデ甚ダ惡カッタト云フ主意ヲ茲ニ現ハスト云フノデハナイ

○子爵谷干城君 併ナガラ唯今ノ御答ニ依リマスルト貴族院ノ意志ヲ容レタ

ト云フ斯ウ云フ御話デアリマシタガ、貴族院ノ意志ハ濫用スルカラト云フノデアリマスカラ、政府モ今マデノ濫用ヲ段々後悔シタト言ハナケレバナラヌ

○政府委員(男爵末松謙澄君) ツレハ貴族院ノ意志ガ文字ニ現ハレタト言ハレテモ誰モ悉ク同一ノ思想ト云フ譯デハナイ、谷子爵ハサウ思ハル、カ知ラヌガ外ノ方ハサウデナイ、政府デ容レタ事ハ文字ニ現ハレテ居ル所ノ事項ヲ示スト云フ事ト一週間ト斯ウ云フ文字ヲ入レタト云フ事ニ過ギナイノデアリマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセヌニ依ッテ本案ノ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○子爵堤功長君 本案ノ特別委員ハ議長ニ於テ選定アラントヲ希望シマス

○男爵玉松眞幸君 贊成

○男爵中川興長君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 唯今堤子爵ヨリ本案特別委員ノ選舉ハ議長ニ一任スルト云フ動議、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数デゴザイマス、次ニ明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案、衆議院提出第一讀會ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス

(有賀書記官朗讀)

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例中削除法律案
右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也
明治二十九年一月二十八日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
衆議院議長楠本正隆

明治二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例第十二條ハ明治二十九年三月三十一日限り削除ス

○副議長(侯爵黑田長成君) 別ニ御異議ガゴザイマセヌニ依ッテ本案ノ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○子爵京極高典君 此案ノ特別委員モ議長ノ選定ニ任セマス

○子爵山口弘達君 贊成

○副議長(侯爵黑田長成君) 京極子爵ヨリ本案ノ特別委員ノ選舉ハ議長ニ一任スルト云フ動議デゴザイマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者、多數

○副議長(侯爵黑田長成君) 過半数デゴザイマス、次ニ古社寺保存會組織ニ

關スル建議案、公署近衛篤磨君外二名發議ノ會議ヲ開キマス、書記官ヲシテ朗讀致サセマス

〔有賀書記官朗讀〕

古社寺保存會組織ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十九年一月二十九日

發議者

公署 近衛篤磨

伯爵 松浦詮

中村雅真

贊成者

公署 二條基弘

外三十七名

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

古社寺保存會組織ニ關スル建議

我國ノ美術ハ概ネ神佛敎ニ因テ發達進歩シ神社佛閣ノ建築ニ神佛像及諸般寶物等ノ彫鑄ニ一種精妙ノ神工靈技ヲ極メ本邦固有ノ特能トシテ一國ノ光輝ヲ放ツニ足リ亦以テ後世美術ノ模範ト爲スヘシ然ルニ方今美術ノ淵源タル古社寺ハ一般ニ衰弊ヲ極メ漸ク破損ニ就クモ修覆ノ力ナク殆ント保持スル能ハサラント是時勢ノ然ラシムル所ニシテ已ムヲ得スト雖モ其盛衰ハ一國ノ美術一國ノ光榮ニ關スルヲ以テ國家ニ於テ固ヨリ之ヲ傍觀スルヲ得ス宜シク至當ノ方法ヲ設ケ之レカ保存ノ道ヲ講セサルヘカラサルモ其事タル重大ニシテ學識經驗アルモノ、協議ト贊畫トヲ要スルカ故ニ彼ノ鐵道土木兩會ノ例ニ倣ヒ古社寺保存會組織ノ急要ヲ認メ茲ニ之ヲ建議ス

〔公署近衛篤磨君演壇ニ登ル〕

○公署近衛篤磨君 本建議案ハ兩三年前京都府知事ノ中井弘氏ト協議ノ末、兩人提出者ト爲リマシテ議場ニ持出ス積テ居リマシタ、然ルニ其際丁度此戰爭ノ始マリマシタ頃デアリマスノデ暫ク見合セテ居リマシタ、其中不幸ニシテ同氏ハ逝去セラレマシタ、私ハ其遺志ヲ繼イデ尙ホ建議ヲ致ス考デアリマシタ、其外種々ノ調査モ致シマシタ且ツ經驗アル人ノノ説モ聞キマシタ、其頃ヨリ調査モ大分精密ニナツテ居ル積デアリマス、又内務省ノ訓令ガ昨年六月ニ出マシテ古社寺ノ取調ヲスル方針ヲ示サレタコトガアリマス、ソレニ附イテハ自分ノ考ニ依ツテ大ニ贊成ヲ表スル所モアリ或ハソレニ不同意ヲ唱フル所モアリソレガ今日建議ヲ致ス參考ニナツタノデアリマス、併ナガラ其大主意タルヤ固ヨリ當初ノ事柄ト變タコトハナイノデアリマス、大部分ノ方ニハ御話ヲシタコトモアラウカト思ヒマス、抑、此古イ建築デアリマスルトカ古イ美術デアルトカ云フモノハ是ハ其國ノ飾リデアリマシテ古代

ノ建築若クハ古代ノ美術ノ多キ所ハ自ラ其國ノ品位ヲ高メテ居ルモノト云フテ宜カラウト思フデス、埃及ノ如キ若クハ希臘、羅馬ノ如キニ至リマシテ今日ニ尙ホ古代ノ美術ノ存シテ居ルト云フモノハ餘程其國ノ品位ヲ……マア埃及ノ如キハ大ニ衰頹シテ居リマスルケレドモ矢張世界一般ノ人ガ其國ヲ追慕シテ探檢ヲスル者ガ多イト云フノモ古代美術ノ進シテ居テ尙ホソレヲ今日マデ保存サレテ居ルト云フコトガ其原因デアラウト思フデス、我國ニ於キマシテモ東洋ニ於テハ支那ト我國ダケガ先ツ立派ナル獨立國デアツテ其外ハ殆ド外國人ニ蹂躪サレテ居ルヤウナ國デアリマスルガ其立派ナル歴史ヲ持ッテ居ル此古イ國デアツテ隨分古代ノ建築モ殘リ尙ホ古代ノ美術ト云フモノモ存シテ居ル日本デアツテソレガ又外國人ノ大ニ日本ヲ稱贊スル原因ト爲ッテ居ル所ノモノデス、ソレガ往々頹廢ニ歸シテ……若モ今日ニシテ之ガ著手ヲシナカッタラバ遂ニハドレモコレモ廢滅シテ仕舞フ虞ガアルト思フデス、現ニ近年ハ不注意ノ點カラシテ火災ガ起ッテ彼ノ立派ナル大伽藍ノ如キモノモ續々回祿ノ災ニ罹ルト云フコトハドナタモ御承知ノコトデアリマス、彼ノ京都東福寺ノ如キ或ハ青蓮院ノ如キ南禪寺ノ如キ引續イテ回祿ノ災ニ罹ッテ居リマス、其外各所ニ散亂シテ居ル神社佛閣ニシテ此火災ノタメニ烏有二歸シタモノモ有リ又ハ其保管人ノ不注意ノタメニ修繕モ出來ズ段々破損ニ及ブト云フ所ノモノモ隨分澤山有リマス、今日ニシテ之ヲ修覆シ或ハ大手ヲ入レルト云フコトノ手順ヲ取ラナカッタラバ遂ニハモウ救フコトガ出來ヌヤウナ有様ニナツテ仕舞フダラウト思ヒマス、是ハ實ニ我國ノ體面上ニ於テ甚ダ惜ムベキ事ト私ハ考ヘマス、伊太利ノ如キハ古代美術ノ保存、古代建築ノ保存ノタメニ社寺ノ保存費トシテ年々貨幣ニ積ッテ七十萬圓許リノ費用ヲ使ッテ居ルト云フコトデアリマス、固ヨリ我國ノ今日ノ有様デ年々七十萬圓ノ金ヲ此事業ニ使フコト云フコトハ或ハムツケシイ事デアラウト私モ考ヘマス、併ナガラ固ヨリ羅馬時代ノ古イ寺デアルトカ或ハ大キナ建築デアルトカ云フモノハ皆石造デアルトカ或ハ煉瓦作りデアルトカ云フモノデアツテ之ヲ修覆スルノニハナカノ、大變ナ費用ガ掛カルデス、併シ日本ノ建築ト云フモノハ御承知ノ通極ク粗造デアリマス……粗造ト云フト可笑イカ知レヌケレドモ木造デアツテ修覆杯ニモソレ程骨ガ折レナイモノデアアルカラシテ金ガ掛ラヌモノデアリマスカラシテソレ程ノ費用ヲ費ヤサヌデモ充分ニ之ヲ保存シテ行くコトガ出來ララウト私ハ考ヘマス、其今日ニ現存シテ居ル社寺ノ數ト云フモノハ總計日本全國デ十七萬幾ラト云フモノニナルサウデス、其中稍々歴史ニ徴シテ將來ニ保存ヲスベキモノ或ハ又美術ノ點カラ大ニ之ヲ修繕シテ保存スベキモノ或ハ又風致ノ上カラ之ヲ修繕シテ保存スベキモノ、サウ云フ幾ラカ保存シテ充分ニ價ノ有ルト云フヤウナ物ダケデモ十二萬八千許リ有ル……斯ウ云フコトデス、併シ其中ニソレヲ今日悉ク皆保存スルダケノ價ガ有ルカ無イカ、ソレハ充分ニ調査ノ上デナケレバ分ラヌデアリマスケレドモ大體既ニサウ云フ多數ノ社寺ガ有ルノデス、是等維新前ニハ相當ノ

朱印黒印トナテ寺ノ保存ノ上ニツレ程困難モ見ナカッタノデアリマセウガ
繼新ノ際一般ニサウ云フコトガ廢シテ仕舞ヒ且ツ保存ノ道ト云フモノハ殆ド
立タヌ、ノミナラズ全ク破壞主義ノヤウナ世ノ中ニナリマシタガタメニ美術
杯ト云フモノモ壞ハレタハ壞ハレタ儘ト云フ姿ニナツテ今日デハ存シテ居ル
モノハ其時分ノ寧ロ二分ノ一ト云ヒマスカ或ハ三分ノ二位ヨリナツテ居ラヌ
ダラウト思ハレルデス、今日之ヲ著手シナカッタラバ段々廢滅ニ歸シテ遂ニ
日本ノ美術ト云フモノハ痕跡ヲ留メズ、大抵外國人ノ手ニ歸シテ歐羅巴ノ博
物館ノ内ニ日本ノ美術ト云フモノハ陳列サレテ却ツテ本國タル日本ニハ何モ
殘ラヌト云フ珍事ヲ惹起スニ至ルダラウト考ヘマス、是ハドウシテモ今日カ
ラ徐々ト此修繕或ハ保存ノ事ハ著手ヲセバナラヌト思ヒマスガ其方針ト云
フモノハ決シテ宗教ガ充分ニ日本ニ弘ガタ、ドノ宗教ガ能ク弘ガテ居タカ
ラ是ハ是ダケノ補助ヲシテヤラネバナラヌトカ或ハドノ宗教ハドノ位ナ感化
力ガアツタカラシテ此位ナ補助ヲセバナラヌト云フ方ノ點カラデハ隨分依
怙偏頗ノ事モ出來、今私ガ述べタ所ノ美術ノ保護トカ或ハ風致ヲ助ケルタメ
トカ或ハ歴史上ノ物トカ云フモノニ關シテハ何等ノ影響モナイコトデアリマ
スカラ寧ロツレ等ノ事ニハ頓著ナク唯々前ニ述べタ所ノ三ツノ點カラ、假令寺
ト云フモノハドウ云フ由緒ノ有ル寺デアラウトモ格別聞エナイ寺デアラウト
モ或ハ其社タルヤ格別ニ聞エタ社デナクモ苟モ前ニ述べマシタ三箇條ノ點
ニ適シテ居ルモノデアラナラバ保存ヲスルコト云フ所ノ方針ヲ定メルヤウニシ
ナイト云フト社寺保存ト云フモノハ誠ニ結構デアルケレドモ其中自ラ弊害ガ
生ジテ來ルダラウト思ヒマス、前ニ述べマシタ内務省ノ訓令ト云フモノハ有
リマスルガ是ハ至極綿密ニ調査シタモノデアリマス、形式上誠ニ立派ニ出來
テ居リマス、併ナガラ其實ニ向ッテハ或ハ隨分アレバ實行スルコトハムツ
ケシイダラウト思フコトガアリマス、凡ソ其古社寺ヲ八種ニ分ツテ居リマス、
内務省ノ訓令ト云フモノニ據レバ、……其中文明十八年以前ノ創立社寺ト云
フノガ第一種ニ屬シテ居ルガ是ハ保存ノ創立ト云フコトガ標準ニナツテ居リマ
スト餘程ムツケシイ、隨分創立ト云フモノハ千年餘リ以前ノ創立ニ係ル寺デア
ツテモ其後度々火災デアルトカ或ハ戰亂ノタメニ破壞サレタト云フコトガア
ツテ其中ニ復タ建築シタトカ云フヤウナ風デアリマスカラシテ隨分創立ハ早イ
寺デアツテモ實際ノ建築ハ極々新シイ寺モ澤山有ル、ツレ等ノモノヲ唯創立ガ
何年、文明十八年以前デアアルカラト云フノデツレヲ皆保存スル點ニ至ッテハ
……成程最モ見易イ標準デアアルカ知ラヌガ却ツテ遺スベキモノガ遺ランデ
遺スニ及バヌモノガ遺ルト云フノガ隨分有ウト思フ、其外此八種ノ中一ニ舉
ゲレバ煩シイコトデアリマスカラ舉ゲマセヌガサウ云フ弊害ガ隨分有ウト思
ヒマス、其調査ハ既ニ内務省ノ手ニ達シタカ達セヌカ知ラヌガ各府縣ノ社寺
掛ノ屬官ガ一二名管内ヲ廻ッテドノ寺ハ幾棟有ル其金堂トカ食堂トカ云フノ
ハ幾坪ノ建物ト云フコトヲ調べタノデ成程内務省ガ示シタ標準ダケハ調べタ
デアリマセウガ實際ドノ寺ガ最モ先ニ保存スベキモノデアルトカ或ハドノ寺

ハドノ位ノ風致ヲ備ヘテドノ位ノ價ノアルト云フコトニ就イテノ調査ハ一二
ノ……專門デナイ所ノ俗吏輩ノ調査デハ満足ヲスルコトハ私ハ出來ヌト思ヒ
マス、ソコデ古社寺ノ保存ト云フモノモ今述べタ十何万ヲ一時ニ保存ノ費用
ヲ要求スルハムツカシイ話デアリマスガ漸次ニ保存ノ方法ヲ立テルト云フ風
ニシマシテツレヲ調査スルタメニハ建築上ノ經驗ノアル者或ハ美術上ノ事ニ
考ノアルト云フ所ノ即チ朝野ノ學識經驗アル人ミヲ網羅シ又一方ニハ是ハ經
費ニモ關係スルコトデアリマスカラ此貴衆兩院ノ議員カラモ其委員ヲ出シテ
充分ニ研究ノ上デ……是等ノ調査會ヲ組織シテ研究ノ上デ順序ヲ立テ、經費
ヲ議會ニ要求シテ古社寺保存ヲスルコト云フコトガ一番穩當デアアルマイカト
考ヘル、ツレデ今直ニ古社寺保存ノタメニドノ位ノ金ヲ要求シナケレバナラ
ヌト云フコトハ無論ナイト思ヒマス、唯調査スルコト云フコトニ就イテハ今日
カラ著手ヲシテ貫ヒタイト思ヒマス、若シ之ニ反對スル論者ガ有ウモ知レヌ
ト思ヒマス、其説ハ必ズ斯ウ云フノデアラウト思フデス、今日ハ國費多端ノ
時デアアル戰後ノ經營ヲスベキ時デアアル軍艦モ造ラネバナラヌ其外各種ノ事業
モ起サネバナラヌ時デアアル、ツレニ古社寺ノ修繕ヲスル杯ト云フコトハ甚ダ
緩急ヲ誤ツタ話デアアルト斯ウ云フ議論ガ或ハ起ルデアラウト思ヒマス、併ナ
ガラ是等ハ甚ダ思ハザルノ甚ダシイモノト思フデス、昨年一昨年ノ戰爭ハ幸
ニシテ 陛下ノ御稜威ト陸海軍人ノ勇武ナル勳トヲ以テ充分ナル好結果ヲ收
メマシタ、外國ガ日本ヲ視ルノハ從前トハ違フノデアリマス、以前ノ日本ハ
唯半開國ノ日本トシテ視テ居ッタ將來外國人ガ日本ヲ視ルノハ隨分油斷ノナ
ラヌ國ト思フテ視ルノデアラウト思ヒマス、斯ノ如ク外國ガ日本ヲ注目シテ
居ル際ニ當ツテ成程程戰ハ強カッタ、併ナガラ其外ノ事ニ附イテハ何モ考
ナイ國デアアルト言ハレルノモ殘念ノ話デアアル、一方ニ戰ヲシテ名ヲ揚ゲテ其
後ニモ充分軍備ノ擴張ヲシテ用意ヲシテ居ルニモ拘ラヌ又一方ニハ古建築古
美術ヲ保存スルタメニ是ノ事ヲヤツテ居ルト云フノハ隨分日本ノ品位ヲ高
メルニ附イテ立派ナ話デアアラウト思ヒマス、今日ハ經費ガ澤山入ル國費多端
デアアルカラト云フ論ハ取ルニ足ラヌト思ヒマス、斯ウ云フ際デアアルカラ尙ホ
更ラヤラナケレバナラヌト思ヒマス、段々之ニ附キマシテハ御説モ有リマセ
ウカラ伺ヒマシタ上御話ニ附イテ事實モ申上ゲマスガ大體ノ意見ハ此位ノコ
トデアリマス先ツ是ダケ……

○男爵小澤武雄君 一寸質問ヲシマスガ段々今ノ御演説デ分ッタヤウニモア
リマスガ分ラナイ所ガアリマス、此建議ハ古社寺ノ保存會ノ組織ダケヲシテ
是マデ内務省アタリデ示シテアル所ノ方針……取調方ノ方針ノ惡ルイ所ガ有
レバ改メルト云フ趣意ノヤウニ本文ハ見ヘルデス、併ナガラ理由書ノシマイ
ニ行クト「適當ノ方法ヲ設ケ財政ノ許ス限ニ於テ其保存修繕ノ費ヲ補給セサ
ルヘカラス」トアル、ツレデ金ヲ出シテヤルト云フコトニスレバ提出者自身
モ言ハレタ通今日ハ餘程考ヘナクチャナラナイ、唯保存會ノ組織ダケヲシテ
置クト云フコトデアレバ宜イカモ知レナイ、ソコヲ段々今ノ御演説ノ中カラ

聽イテモ兩様ニ涉ッテ判然シナイノデスガ組織ダケシテ置カウト云フノデスカ組織ヲシテ從ッテ金ヲ要求サセテ方針等ヲ設ケテ行クト云フ御精神デアアルカソコヲ承ハリタイ

○公署近衛篤磨君 建議案ノ趣旨ハ委員會組織ノ趣旨デアアルケレドモ元々委員會ヲ組織シテ調査ヲシタ上デ保存ヲシナイト云フノデアアレハ何モ委員會ノ必要ハナイノデス、ソレデアリマスカラ無論委員會ヲ開イタ後ニ必要ガ起ツタナラバ勿論經費ヲ要求シテ議會ノ協賛ヲ求メテ貰フト云フコトハ言ハズシテ分ツテ居ル話デアアルデス、併ナガラ必シモ十二万何千ノ寺ヲ一時ニ調査シテ一時ニ保存ノ金ヲ出スノデナク年々緩急順序ニ依ッテ幾ラカツ、金ヲ要求スルニ止マル譯デアソレデ議案其物ハ唯委員會ガ組織シテ欲シイト云フニ止マルノデ、ケレドモ委員會ヲ組織スルニ附イテハ後ノコトマデナケレバ何ノタメニ委員ヲ組織スルト云フ理由ガ分ラヌデアリマスカラソレデマデ述ベマシタノデアリマス

○子爵曾我祐準君 私も質問ガアリマスガ此建議案ノ末文ニ「鐵道土木兩會ノ例ニ倣ヒ云々」ト云フコトガ有リマス即チ此古社寺保存會ト云フモノハ鐵道議會會若クハ土木會ノヤウナ工合ニ組立テラレタイト云フ御趣意ノヤウニ思ハレマスガ此鐵道會杯ト云フモノハ鐵道其事業ガ國家ノ必要トシテ、ヤラナケレバナラヌト云フコトガアルソレ故ニ主務大臣ガ其事業計畫ニ就イテ諮詢ヲスル又土木ノ如キハ治水道路改築其事業ガ國家ノ事業トシテ必要ナ事業デアアルニ依ッテ其仕事ニ就イテ主任大臣ガ諮詢ヲスルノデアアル、其タメニ設ケラレタ會デアアル、然ニ此古社寺保存會ト云フモノハ如何ナル主務省ニナサル積デアアルカ主務省ハ如何ナル所ニナサル積デアアルカ美術ノ點デ言ヘバ文部省ノヤウニモ思ハレ、又古社寺其物カラ言ヘバ内務省ノヤウニモ思ハレル、即チ土木鐵道會ハ諮詢會デアッテツコダケデ建議スルノデナイ、其上シヤウト云フ事柄ガ必要デアッテ第一責任者ガ有ッテドウシタラ宜シイト云ッテ問フコトデアアルガ主任者ガ定マラナケレバ問ウト云フ事が起ッテ來ナイ、ソレ故ニ建議者ハドウ云フ御考デアアルカ分ラナイカラソコヲ……

○公署近衛篤磨君 古社寺ト置イテアル以上ハ内務省デアラウト私ハ考ヘテ居ル

○子爵曾我祐準君 更ニ御尋シマスガ古社寺ハ左様デアラウガ此事ハ美術ノ委員デアアル、古社寺其物ガ尊イカラト云フ主意デハナクシテ美術其物ヲ保護スルト云フコトガ全體ニ涉ッテ言フデアアル、然ルニ内務省デヤルト云フ御考デアリマスカ

○公署近衛篤磨君 無論其積デス、古社寺以外單ニ美術ト云フ點カラ保存スルト云フコトナラバ一己ノ所有物、即チ私ノ所藏シテ居ル額デモ何デモ保存セヌナラヌ、是ハ古社寺即チ寺其物ガ美術ニ關係ガアルモノデアアル、或ハ社デアッテモ其通デアアル、ソレデアアルカラ其中ニアル寶物ト云フモノハ無論ソレニ包含シテ居ルケレドモ寺ナリ社ナリヲ保存スルノデアアルカラ無論是ハ

内務省ニ屬スベキモノデアラウト私ハ考ヘテ居ル

○男爵小澤武雄君 尙ホ御尋シマス、今ノ曾我子爵ニ對シテノ御答ニ古社寺ヲ保存スルノデアアルカラ内務省デアアルト云フコトデゴザシタレドモ古社寺ト云フモノハ美術ノ點ガアルカラシテ保存ノ必要ガアルト云フコトデアアル、然ラバ其鐵道ハ鐵道技術ガ要ルカラ遞信省ノ方ニ屬シテ居ル又土木ノ事ハ内務省トカ云フコトガアル、美術ト云フモノハ内務省デハナイ、文部省カ何處カデナクテハナラヌ、サウスルトドウシテモ曾我子爵ノ疑問ノ點ガアラウト思フ、唯美術ト云フコトヲ言ハズニ古社寺ノ何年以上ノモノヲ保存スルコトデアアレバ御説ノヤウデスケレドモ全文ヲ讀ンデ見ルト大變美術ノ事ヲ言フデアアル、サウシテ美術ノ事ノ研究ノ出來ル所デナクッテハドウシテモイケナイト思フガソレハ如何デス

○公署近衛篤磨君 ソレハ委員ノ中ニ文部省ノ人モ這入ルデアリマセウシ、或ハ民間ノ人モ這入ルデアリマセウシ内務省デ美術ガ分ラヌデモ委員ノ中カラ色々出テ來ルコトデアアルカラ強テ文部省デナクッテモ宜カラウト思フ

○男爵小澤武雄君 尙ホ御尋シマスガサウスルト鐵道土木兩會ノ例ニ倣フト云フコトガ少シ無理ニナラウト思フ文部省ノ人モ這入ラウケレドモ重モニ諮詢スル會デアアルト云フ曾我子爵ノ御説デアッタ、ソレデアル處カラデモ委員ガ來ヤウト云フ御答デアアルケレドモ少シ此鐵道土木ノ會ノ例ニ倣フト云フコトガ穩當デナカラウト思ヒマスガ其邊ハ差支ナイノデスカ

○公署近衛篤磨君 提出者ノ考デアハ是ハ委員會ノ組織ヲ土木ナリ何ナリニ倣フノデ固ヨリ其精神ト云フモノハ或ハ違フカモ知レヌデス

○子爵曾我祐準君 意見ヲ述ベマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 宜シウゴザリマス

(子爵曾我祐準君演壇ニ登ル)

○子爵曾我祐準君 此建議案ハ我々ノ最モ尊信スル所ノ近衛公爵松浦伯方ノ御發議デアッテ誠ニ情ノ上カラ於ケバ如何ニモ贊成ヲ致シタイ譯デアリマスケレドモ如何セシム我々ニ於テハ今日此建議案ヲ贊成スルコトガ出來ナイ、其理由ヲ一應述ベテ置キタイト思フ、第一此建議案ノ要點ト云フモノニ就イテ甚ダドウモ不完全ト思フハ曾我小澤兩君ヨリモ御質問ノ出タ通ノコト、抑此古社寺ヲ國庫ノ支辨ニシテ永遠保存スルヤ否ヤト云フコトガ是ガ一ツ確定シテサウシテ愈々古社寺ト云フモノハ一方ニハ神佛ヲ尊崇スルトカ一方ニハ美術ヲ貴ブトカ云フコトニ附イテ國ノ風教上ナリ國ノ美術上ナリ是非トモ之ヲ保護セヌナラヌト云フコトハ極ツテ然ル後ニ是ハ出來ニヤナラヌコト、考ヘル、ソレデ今日若シ此會ヲ是非欲スルト云フノ思召ナラバ此古社寺ニ屬スル所ノ歴史ヲ保存シ美術ヲ保存スル所ニ就イテ我國ニ於テハ永遠國家ヨリシテ之ヲ保存スルコト云フコトヲ確定セシメテソコデ其確定シタ所ニ於テ掇色ノ得手勝手ヲ云フ甲ノ坊主ハ是非自分ノガヤツテ貰ヒタイト、乙ハ又自分ノヤツテ貰ヒタイト種々ノ坊主神官ガ勝手我儘ナコトヲ云フニ相違ナイ、ソレヘ持ッテ行ッテ貴衆兩院ノ人ヲ以テ委員杯ヲ組織スルト云フコトニナリマス矢張又色々ト所謂我田ニ水ヲ引クト云フヤウナコトニナツテ非常ナ弊害ノ出來ルコトニナル、宗教ニ關スル事ヤ何カニナルト選舉ヤ何カニ附イテ

非常ナ弊害ノ起ルコトデアル、ソレデ第一ニ反對スルノハ今ノ通之ヲ永遠國庫ニ支辨スルコト云フコトヲ政府ガ極メ、サウレテ極メタ所デアラハ、我儘ヲ言フカラ我儘ヲ言ハサヌヤウニ之ヲ公平ニ議シテ行カヌナラヌト云フ場合ニ至ッテ始メテ會議ノ必要ガ起ラウト考ヘル、サウ云フ譯デアアルカラシテハドウモ此建議案ニ於キマシテハマダ國庫ニ支辨スルヤ否ヤト云フツレモ極メニ思フ、斯ウ云フ會議ノ出來タ所ガ私ハ何ノ必要モナイ實ニ何ノ效力モナイコト、機械ニナッテ仕舞フ決シテ今日國家政治上ニ於テ必要ノモノナラナイト私共ハ考ヘル、ソレカラシテ或ハ此今日海陸ノ軍備擴張セヌナラヌ際デアアルカラ、ソレデ反對スルコト云フ御考モアルコトデ申サレマシタガ、即チ私共ハ其一人デアリマス、デ實ニ海陸ノ軍備ハ必要ニ相違ナイ、此必要ナルコトハ我々ノ屢々論シタコトデアアル、故ニ今日ニ至ッテ決シテ急デナイト云フコトハ申サナイ、申サナイガ、併シ今日政府ヨリ出シテ居ル所ノ豫算ヲ御覽ナサレ、實ニ非常ナ擴張デ容易ナコトデハナイ、非常ナ擴張ナコト、思ハレル、其結果トシテカラニ、人民ハドウ云フ負擔ヲシテ居ルカト云ヘバ、或ハ烟草、或ハ酒、實ニ頗ル酷ナ稅マデ負擔ヲセヌナラヌコトニナッテ居ル、デ此際ニ當ッテ未ダ政府ヨリ古社寺ヲ永遠ニ多數ノ金ヲ掛ケテカラニ保存ヲシ、此美術ヲ充分ニ保存シテ往クコト云フコトモ未ダ確定セズニ此會議ヲ設ケテ多少ノ費ヲ掛ケルト云フコトハ私ハ其時ニ非ズト思フ、私共ノ從來考ヘテ居ルハ此美術ヲ保存スルニ就イテハ此希臘アタリデシテ居ルヤウナ美術保護法案ト云フモノヲ設ケルトハ是ハ最モ必要デアルト思フ、若シ此美術保護法案案ト云フモノデモ御作リニナッテ御出シニナッテ居ルハ私共贊成ヲ致スコトデアラウト思フ、ソレデ先ツ今急ナル所ノモノハ美術保護法案デアルト思フ、ケレドモ唯單ニ古社寺保存ト云フコトニナリマス、其弊害ハ實ニ言フ可カラザルナカ、鐵道ノヒツパリ所シヤナイ、眞ニ高德ノ坊主ニシテカラニ己ノ力デ一ノ寺ヲ創立シ又立派ナ寺ヲ保護シテ往クダケノ感化力ノ有ルモノハ宜シウゴザイマスケレドモ、賣僧坊主杯ハ必ズ色ミト方策ヲヤツテカラニ不都合ナ事ヲ獻立テル、ソレデ深ク論ズル程ノ事トモ思ヒマセヌケレドモ、斯ウ云フコトヲ今日人民ニ苛イ稅ヲ掛ケテサウシテ非常ナ軍備ヲ擴張セヌナラヌ、實ニ容易ナラヌ際ニ如何ニ美術ガ必要デアアル、國ノ美觀デアアル、外國人ニ誇ルニ足ルト申シタ所ガドウモ人民ニ斯ノ如キ酷稅ヲ課ケテ彼ヲ苦シマシムル際ニ當ッテ餘リ吞氣ナ建議案ト考ヘルニ依ッテドウモ之ヲ贊成スル譯ニハ往キマセヌ、デ多數ノ諸君ニ於テモ定メシ御同感ノ御方ガ多カラウト考ヘマス、一應反對ヲ述ベテ置キマス

○宮本小一君 谷子爵ニ一寸質問ヲ致シマス、唯今ノ御演說ハ頗ル此案ニ對シテハ反對、反對ダガ、隨分尤ノ御論ノヤウニ存シマスガ、御論中ニ美術保護法ト云フモノナラ宜シイ、ソレナラバ贊成スルト云フコトデゴザイマシタガ、其保護ト申スモノハドウ云フ法デゴザイマス、隨分長イコトデゴザイマセウカラ、マア簡單ニ斯ウシタナラバト云フ大意ヲ伺ヒタウゴザイマス

○子爵谷干城君 ソレハ私モ話ヲ聞イテ居ルノ決シテ保護法ト云フモノハ希臘ノハ斯ウナッテ居ル、露西亞ノガハ斯ウナッテ居ルト云フコトハ調ベマセヌケレドモ、今日美術ヲ重ンズルト云フ上ニ於テハ此保護法ト云フモノガ無クテハ到底如何ニ金ヲ保存シヤウトシテモ、十萬圓ヲ保存シテモ之ヲ百萬

圓ニテ買フト云フコトニナレバ到底出來ナイ、出來ナイカラ國ノ美術ヲ大切ニシヤウト云フコトニ就イテハ右ノ保護法ト云フ國ノ法デドウシテモ是ハ保存セヌケレバナラヌト云フ區別ヲ立テ、法律デ極メテアル、決シテ歐羅巴各國デ少ウナイ殊ニ希臘ニ於キマシテハ土耳其ノ管轄ニナッテ以來アノ古イ國デ立派ノ美術ヲ何處ヘ持ッテ往カレ、此處ヘ持ッテ往カレ、ドウモ金デ買ハレテ皆モウ英吉利アタリニ持ッテ往カレテ居ル、ソレデ皆獨立シテ以來四五十年此方ニ至ッテ始メテ是ハドウシテモ國家デアラナケレバナラヌト云フコトニナッテ居ル、其效力ト云フモノハナカ、容易ナラヌモノデ、此話ハ私モ露西亞ノぐりぐりびッ云フ人ト埃太利ノ鐵道ノ中デ一緒ニナッテ日本ノ美術ヲ賞讃スルト共ニ此保護法ト云フモノヲドウシテモ早ク採ヘテヤラニヤイカヌト云フコトヲ一寸聞イタコトヲ御話シタダケデ、其法律ノコトハドウスルカト云フ事ハ法律家ヲ研究シナケレバ私ニヤイ分ラヌ

○公爵近衛篤磨君 唯今谷子爵ノ御說ヲ聽キマシテゴザイマスガ、格別大シタ反對デモナイト思ヒマス、趣意ニ於テハ別段ニ反對デハナイ、唯次ノ事ガ、是ハドウモ前ニ御斷リヲシテ置イタ通各見ル所ガアッテ、今日必要デアアル、必要デアナイ、此際ヤルベシ、ヤルベカラズト云フノトノ違デアッテ別ニ大體ノ上カラハ違ハナイト思ヒマス、ソレカラ委員會ノ弊害デアアルト云フコトヲ言ハレマシタガ、ソレハ成程サウ云フ弊害ハ有リマセウ、併ナガラ其弊害ハ既ニ有ルノデス、古社寺ノ保護金トカ何ト云フモノハ今日デモ既ニ政府カラ支拂ッテ居ルコトガ多少アル、ソレニ就イテハ既ニ色ミノ弊害ガ有ルノデアリマス、委員會ノ無イ今日ニシテ既ニ斯ノ如キ弊害ガ有ルデス、委員會ガ無カッタナラバ益ニ是カラ其弊害ガ甚ダシクナル、故ニ委員會ア其弊害ヲ防グト云フ積デアリマス、其邊ハ私ノ前ニ辯ズル所ガ足りナカッタカモ知レマセヌガ、滿場ノ諸君ニモ其邊ハ私ノ前ニ辯ズル所ガ足りナカッタカモ知レマセヌガ、○子爵曾我祐準君 原案贊成ノ演說者ガゴザイマス、一寸伺ヒマス、アレバ私ハ反對ノ意見ヲ充分述ベタイト思ヒマス、原案贊成者ガ無ケレバモウ述ベルニ及ビマセヌ

○副議長(侯爵黑田長成君) 別段通告者ハゴザイマセヌ、別ニ御發議ガナイト存シマスニ依ッテ本建議案ニ就イテ決ヲ採リマス、本建議案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者

暫ク其儘ニ……過半數デゴザイマス、本建議案ハ可決セラレマシテゴザイマス、明日即チ二月一日ノ議事日程ヲ御報告ニ及ビマス、午前十時開議、第一、理事ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告、第二、明治二十八年勅令第九十二號承諾ヲ求ムルノ件、政府提出、衆議院送付、會議、前會ノ續、特別委員會報告、第三、官吏恩給法及官吏遺族扶助法律案、尾崎三良君外一名發議、第一讀會、本日ハ散會

午後零時三分散會

貴族院議事速記正誤

頁 段 行
八三 上 二 一
誤 第三款第十七 正 第三款第十五
款 第十七款